

『作業環境』投稿規程

1. 本誌の概要

(1) 目的

本誌は、(公社)日本作業環境測定協会の機関誌として、作業環境測定、評価、それに基づく作業環境改善の重要性を広く社会に浸透させるとともに、作業環境測定士、測定機関の測定業務の進歩改善、教養の深化、知識の向上、品位の保持に資し、あわせて会員相互の交流、親睦を図ることを目的とする。また、作業環境測定の専門誌として、作業環境測定にかかわる内外の研究文献、調査報告、情報などを中心に、産業保健、労働衛生全般にわたる多彩な記事を掲載し、会員、関係者のみならず、作業環境測定への一般の関心と理解を喚起することを目的とする。

(2) 投稿者の資格

本協会の会員に限る。

ただし機関誌編集委員会（以下、編集委員会）が認めた場合は、この限りではない。

2. 投稿原稿の種類

本誌に掲載される投稿原稿は他の学術誌に未掲載のものに限る。種類、内容、審査基準および最大ページ数は以下のとおりである。

種類	内容	審査基準	最大頁数
(1) 研究論文	作業環境測定の技術（デザイン、サンプリング、分析方法）および職業性疾病の予防に関する環境管理技術（評価、改善を含む）について、独創的な新しい研究であって、有意義な知見を含む論文であること。	独創性 信頼性 完成度	8 頁
(2) 事例研究	調査データ、測定データ等のうち、新しい事実や価値ある事実を含む論文であること。	独創性 発展性 技術的有用性	8 頁
(3) 短報	調査データ、測定データ等のうち、研究経過や萌芽的な内容をまとめた論文、または速報的な論文であること。	萌芽性 発展性 技術的有用性	4 頁
(4) 技術情報	作業環境測定、分析方法等の調査データ、測定データのうち新しい技術、発展的な内容	発展性 技術的有用性	4 頁
(5) 報告	作業環境測定、分析方法等の調査データ、測定データの報告	技術的有用性	4 頁

なお、ページ数とは、図、表、写真、見出し、文献、抄録などを含む刷り上がりページであって、1 ページは 2,016 字詰めである。最大ページ数を超過した場合には、超過分の印刷経費を著者に負担させることもある。

論文審査の結果、必ずしも著者の希望どおりの種類とはならない場合がある。

掲載された投稿論文（ただし、(5)を除く）は、一定の期間経過後、国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）が運営する J-STAGE で順次公開される。

3. 投稿原稿の構成

(1) 構成と項目分け

[研究論文]は次の②～⑧の構成とする。ただし、[事例研究]、[短報]、[技術情報]および[報告]の本文構成は、必ずしもこの構成に従わなくてもよい。

- ① 表紙：表題、著者名および研究が行われた機関名と所在地、著者への連絡先等を記載する。別添の「原稿表紙」を利用するか、電子データ上に記載する。
- ② 緒言：論文の目的を示し、研究または観察の論理を要約する。参考文献についての言及は必要最低限に止め、研究全体の要約は行わないこと。
- ③ 方法：研究対象を明確にすること。使用した機器、材料、方法を他の人が追試できるように詳細に記述すること。既に確立している方法（統計的方法を含む）を用いた時は、参考文献を明示すること。ただし、基本的な方法で周知されている場合には参考文献を示す必要はない。方法の記述内容を更に区分してもよい。
- ④ 結果：論理的な研究の進行を示す順序に合わせて、本文中で、または表か図で示すこと。ただし、本文の記述と表、図の内容が重複しないこと。結果の記述内容を更に区分してもよい。
- ⑤ 考察：研究結果の中の新規性のある、または重要な部分について強調し、④結果に記述されている内容の詳細を反復しないこと。新しい発見の意味、本研究の目的の達成度、他の論文との関係などについて論ずること。
- ⑥ 結論(結び)：本研究によって確立した新規性のある結果を、研究目的の達成への寄与に関して要約する。
- ⑦ 謝辞：当研究に実質的に貢献のあった人に対して謝辞を手短かに記述してもよい。
- ⑧ 文献：本文に引用した順番に番号を付し、文末に一覧表とする。引用文献の記載は「『作業環境』執筆の手引き2. 脚注および引用文献の書き方」に従うこと。

(2) 論文抄録

[研究論文][事例研究]および[短報]には、400字以内の和文抄録をつけなければならない。その内容は著者が強調したい要点を含め、目的、方法、結果について要約したものとする。

(3) 英文抄録およびキーワード

[研究論文]：論文抄録に基づき、英文抄録およびキーワード（5個以内）をつけなければならない。

[事例研究]：英文抄録は要さない。ただしキーワード（5個以内）をつけること。

[短報]：英文抄録およびキーワードを要さない。

4. 原稿の提出

原稿は、原稿表紙、本文、図、表、写真、見出し、文献、抄録などすべてについて、紙媒体および電子媒体により(公社)日本作業環境測定協会・機関誌編集委員会宛（『作業環境』執筆の手引き9. 原稿の送付先参照）に提出する。

5. 原稿の受付、審査、再提出

原稿受付日は原稿の受領日とし、投稿者には受付日を通知する。

原稿の採否は編集委員会が決定し、編集委員会の審査によって原稿の加筆、縮小、訂正を求められた場合は、投稿を中止する場合を除いて、返却された日から2か月以内に再提出しなければならない。2か月以上を経過して再投稿された場合は、新規受付として取り扱われる。

一度提出された原稿は、編集委員会の承認なしに変更してはならない。

なお、論文の掲載欄の変更を著者に求めることがある。

6. 著者校正

著者校正は1回を原則とする。この際、組版上の誤り以外の追加、書き改めは原則として認められない。

校正刷りは受取後4日以内に校正して返送する。期限に遅れた場合は、その到着を待たず校了することがある。

7. 別刷

別刷を必要とする場合は、希望部数を校正刷り返送の際に申し込むこと。別刷に要する費用は著者負担とする。

8. 雑誌掲載後の正誤、訂正

掲載済みの論文に対して、印刷上の誤りがあった場合は、雑誌発行後1か月以内に編集委員会に通知すれば、発刊される直近のものにその旨を掲載する。

9. 特別掲載論文の取り扱い

投稿原稿が多数のため掲載が遅延している場合などで、投稿者が至急に誌上発表を希望するとき、特別掲載論文としての取り扱いを文書で申し込むことができる。

申し込みのあった論文は審査の後、掲載の諾否を決定するが、掲載にあたっては、その実費を著者が全額負担する。

10. 表彰

公益社団法人日本作業環境測定協会が定めた委員会は、すぐれた内容により本誌の目的に寄与した論文を、別に定める表彰規程に基づき、表彰することができる。

本賞の対象は、表彰年度から3年以内に本誌に掲載された〔研究論文〕〔事例研究〕〔短報〕とし、編集委員会において選考する。

編集委員会は、受賞論文決定後すみやかに該当者に通知し、本誌に論文名・著者を公示する。

11. 著作権

掲載論文および掲載記事の著作権は、(公社)日本作業環境測定協会に属する。

附則 本規程は、平成25年1月1日から施行する。

附則 本規程は、令和8年5月1日から施行する。

『作業環境』 執筆の手引き

1. 本文の書き方

(1) 文体と用字

文体は簡明で平易な文章を用い、口語体とする。漢字は原則として「常用漢字」を用い、かなは「現代仮名遣い」による。重複した記述はさけ、なるべく簡潔な文章とする。

(2) 術語

専門用語は文部科学省学術用語集あるいはJISに準拠する。

(3) 数字

数量を表す場合および序数的表現の場合には、アラビア数字を用いる。ただし、漢字などと結合して名称を表すもの、概数を表す場合は漢数字とする。

(4) 人名、地名、固有名詞

外来語の人名、地名、学名その他固有名詞は原つづりを用いる。適当な日本語訳のない術語も同様とする。ただし、国名、慣用語はカタカナ書きとし、ローマ字は本文と同じ書体でローマン体を用いる。イタリック体で印刷する必要がある場合は、波線のアンダーラインをつける。英文抄録における著者名などの固有名詞は原則としてヘボン式ローマ字を用いる。製品名には、それに続く括弧内に会社名を記載する。

(5) 図、写真、表の指定

図、写真、表には、それぞれ図1、写真1、表1などのように通し番号をつけ、本文の末尾にまとめておく。そして本文の初出箇所の欄外に、それぞれの番号と表題を記入する。

(6) 発表年月、謝辞

学会、討論会などで発表済みの研究であることを記載する場合には、原稿の末尾に発表年月と会名を記す。また謝辞を付記する場合も、原稿の末尾に記す。

(7) 原稿表紙

原稿には協会指定の「原稿表紙」に必要事項を記載して添付する。

2. 脚注および引用文献の書き方

(1) 脚注、引用文献は最初に出たものから順番に通し番号を肩つき数字で¹⁾、²⁾……のように示し、本文末尾に一括して引用順に記載する。文章の切れ目につける場合は、カンマ、ピリオドの直前の右肩に記す。通し番号をつけにくい場合は、アスタリスク(*)などを用いて脚注欄に記す。

(2) 記載方法は次の例示による。

雑誌の場合著者名、表題、「雑誌名(巻, 号)」, 発行年

書籍の場合著(編)者名、「書名」, 発行所, 発行年: 頁-頁。

3. 図、表の書き方と写真

(1) 図、表、写真の表題、説明文はすべて和文とする。

(2) 図、表、写真はA4判用紙に、1枚ずつ印刷した鮮明なものとする。

4. 化合物名、化学式、構造式の書き方

(1) 本文中では化合物は化学式の後にIUPAC命名法に従い、簡単な化合物には和名を記載する。

この際、『学術用語集（化学編 増訂2版）』（南江堂）、公定書などに準拠する。これらに収載されていないものは、命名法に従って得られる名称（欧文つづり）を英語で記載すること。

- (2) 化合物の名称のなかで使用される文字，記号のうち，置換基の位置を示す N, O, S, C などはローマン体とし，bis, des, allo, iso, neo, cyclo, etio, pseudo, homo, nor など，名称の一部と見なされるものはハイフンを用いなくて，ローマン体で語幹，原化合物名に直結させる。
- (3) 商品名の使用を避ける。やむをえない場合は用いてもよいが，邦字でないものは第1字目を大文字で記述する。
- (4) 本文中で複雑な化合物名や物質名が繰り返し出てくる場合は，初出の箇所で名前を省略せずに記し，その直後に括弧で囲まれた化合物番号をアラビア数字（この場合「」を付す）またはローマ数字で記せば，二度目からこの化合物番号で代用できる。国際的に慣用されている略語がある化合物や物質では，上記の化合物番号の代わりにその略語を用いてもよいが，著者が任意に規定する略語法の使用は避ける。
- (5) 構造式や示性式は，本文中においては記号を用いて表してもよい。その場合は国際的に慣用されている記号を選び，それが何を意味するのかを本文中で明示する。
- (6) 化合物名では構造が簡単にわからない場合には，構造式を付記すること。

5. 単位，量記号の書き方

- (1) 単位は原則として国際単位系（SI）を用いる。
- (2) 量記号，符号は国際的に慣用されているものを用いる。
- (3) 数学記号，量記号は JIS Z 8000 シリーズ を参照すること。
- (4) 特殊な，あるいは特定分野でのみ用いられている単位，符号ならびに表現には必ず簡単な説明を加えなければならない。

6. 数式，数値の書き方

- (1) 量を表す数にはアラビア数字を用いる。
- (2) けた数の大きい数量でも，数字をそのまま連続的に並べればよいが，必要に応じて区切りをつけるときは，3けたごとに半角あけて記述し，コンマはつけない。
- (3) 範囲を示す場合には，ダッシュ（—）を用いて両端の数字をつなぐ。単位記号をつける場合は，例えば 0.5—1.5 g, 145—150° のように書く。
- (4) 変数の記号は，イタリック体で印刷されるように波線のアンダーラインを付す。
- (5) 数式は，本文中の行の途中に入る場合は a/b , $(a+b)/(c+d)$ のように1行に書き，通常は別行にして

$$\frac{a}{b}, \frac{(a+b)}{(c+d)}$$

のように書く。独立した数式には数式番号をつける。

7. 再投稿，再提出の原稿

再投稿，再提出をする場合は，変更のあるページを清書し，訂正のないページとともにとじ直したものを提出する。この際，編集委員会から送付された「審査意見紙」をつける。

変更箇所と変更前後の文章の用紙を添付する。

8. 引用と著作権

他の文献から図、表などを引用する場合は、著作権侵害にならないよう著者の責任において処置すること。

9. 原稿の送付先

〒108-0014

東京都港区芝4-4-5 三田労働基準協会ビル6階
(公社)日本作業環境測定協会・機関誌編集委員会宛

原 稿 表 紙

(原稿提出時には、この様式にご記入のうえ添付していただくか、
同様の内容を必ず1枚目に記載してください。)

原稿種別		<input type="checkbox"/> 研究論文 <input type="checkbox"/> 事例研究 <input type="checkbox"/> 短報 <input type="checkbox"/> 技術情報 <input type="checkbox"/> 報告 <small>(該当する□中に✓印を付けてください。)</small>	
表 題	和 文		
	英 文		
	原稿枚数 () 枚 [図・表・写真の数: 図 () 点, 表 () 点, 写真 () 点]		
著 者	(ローマ字) 氏 名	勤務先および所在地 (和文および英文併記)	
		
		
		
		
		
(著名代表者氏名)		同左連絡先 〒 - 電話 - -	
(備 考)			

©公益社団法人日本作業環境測定協会